

佐藤 孝一（さとう・こういち）

1、プロフィール

14歳の時に詩作を始め、24歳の時に第一詩集を刊行した早熟の詩人。教育者としての業績も大きい。

<生没>

1918(大正7)年3月5日 ~ 1972(昭和47)年4月4日

<代表作>

詩集『北の満月』

<青森との関わり>

板柳町生まれ。津軽地方で長年教鞭をとった。

2、作家解説

大正7年3月5日、板柳町に生まれる。昭和7年4月青森師範学校へ入学、野球部員として活躍する一方、文学書を読み始める。この頃から群木由夫のペンネームで新短歌誌「蒼星」(青森市)や文芸誌「若草」(東京宝文館)に投稿する。昭和12年、20歳で卒業すると、母校板柳小学校に勤務、この頃から新短歌をやめ詩に移る。また、船水清らと文芸詩「千戈」創刊、編集を担当した。昭和17年に台湾に渡り、台湾三股国民学校に勤務、同年詩集『北の満月』を刊行した。昭和21年帰国、22年に北詩人会発行の「北リーフレット」に参加し詩を発表した。昭和24年には教員に復職、以後、津軽の小・中学校校長を歴任する。昭和27年に第二詩集『佐藤孝一詩集』刊行。昭和30年、文芸誌「羊眼」を創刊したが、3号で廃刊となった。昭和46年第三詩集『神話』を刊行。翌年4月4日、在職のまま54歳の生涯を閉じた。

3、資料紹介

○詩集『神話』

図書

1971(昭和 46)年 10 月 20 日

215mm×150mm

第二詩集以後、ほとんど詩を発表しなくなっていた佐藤孝一の第三詩集。限定 500 部の自家版。「神話」ほか、30 篇の詩を収める。